

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月13 日

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 びいちゃむ 第2びいちゃむ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		様子に応じてパーティションで仕切るなどの対応している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準の人数を満たしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		ノンステップフロア・エレベーター・車椅子の方のトイレ設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の掃除・使用後の物品はその都度片付けしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年2回の総会、月例MTG、日々のMTGを行っている。	
	6	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向け評価表とは別に、独自のご家族アンケートを実施し、全てのご意見に対して返答をおこない、意向の確認をおこなっている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現段階では、第三者評価は行っていない。今後の利用については検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部と契約し、定期的にある研修に参加している。	積極的に外部研修に参加し、事業所内で内部研修を行い全体での共有を行っている。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている				

適切な支援の提供

14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		MTGの際に出た項目を参考に当日の担当が立案している。	
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		外出や手先の運動・体感運動など様々なスケジュールで行っている。	積極的に外部研修に参加し、事業所内で内部研修を行い全体での共有を行っている。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			配置や支援などをより効果的に行えるように、システムづくりを行う。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			掲示板や、日々のMTGで口頭での共有が出来ている。
19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日の記録を掲示板で共有している。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		チームでモニタリングを行い、いろいろな視点から話し合いを行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			積極的に連携は取っているが出来ていないところもある為参加促していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		支援会議や関係機関とのやり取りを行っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		ご家庭を通して行っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		会議等で情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		卒業後の事業所から要望有れば情報提供を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		現段階ではできていない。今後も取り入れるかは未定。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		現段階ではできていない。今後も取り入れるかは未定。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		気になることあれば、連絡帳や電話連絡をして共有をおこなっている。	
保	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		現時点でご本人の支援を中心に行っている。
	32	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		対応できることは対応しているが、難しい場合は、関係機関で連携している。	

護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情等あれば、すぐに対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月会報を発行し、普段の様子などの写真を載せて対応している。	
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ご本人の特性に合わせた対応を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		新型コロナウイルスの状況によっては、地域との交流も検討していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	各マニュアルは作成している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		半年に1回避難訓練とAED研修を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		年度ごとのアセスメントや年1回の服薬等のアンケートで調査を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット委員会を設置しており、月例MTGで共有検討を行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設置し、年1回の研修と定期的な委員会を開催し、共有している。	利用者さんの状況によっては、病院と連携し対応していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時・支援計画更新時に説明を行っている上に	自分たちの支援に不適切なことがないか定期定期に振り返りを行う。